

子どもと大人でまちを守る

生活安全マップ 作成マニュアル



ひょうご地域安全まちづくり推進協議会

作成受託者・著者 桐生正幸（関西国際大学）

はじめに

この「子どもと大人でまちを守る生活安全マップ作成マニュアル」は、子どもと大人が一緒になって、まちを守る方法を記した小冊子です。

子どもだけでは、実質的で効果的な「地域安全まちづくり」は出来ません。また、大人だけでやっても、子どものような弱者の視点を欠いてしまい、やはり実質的で効果的な「地域安全まちづくり」は出来ません。潜在的被害者としての高いリスクを持つ子どもが、しっかりと学べて、その特質を反映できるようなプログラムが必要となります。

このマニュアルは、「ひょうご地域安全まちづくり推進協議会」の活動の一環として、より実質的で効果的な「地域安全まちづくり」を目指すために作成された物です。

このマニュアルを実施する際に、幾つかのポイントがあります。

まず大人が、実施前にこのマニュアルを一通り読んでおいてください。毎ページの後半部分に記した「大人の皆さんへ」には、項目毎の重要点が記してあります。ご確認をお願いいたします。

実施当日は、大人がこのマニュアルを読み上げながら進めていってください。子どもが主体的に実施できるよう、大人はサポートしていってください。

次に、事前に準備しておく物です。

地域の大きな地図（グループ分）、地域の小さな地図（参加者分）、筆記用具（えんぴつ、ペン）、カメラ（デジタルか、インスタント）、オリジナルのチェック票、メモ用紙、携帯用の筆記版（地図などを挟む）、大きめの付せん紙、マジックペン（赤、黒など）です。

また、パソコンやプリンター、プロジェクターなどが準備可能なら、ぜひご用意ください。検討会や発表会にて、効果的な活用が期待されます。

「地域安全まちづくり」を成功させるためには、まず地域の実態を客観的に知ることが大切です。そして、それを踏まえ具体的な対策を考えることが必要です。また、地域の仲間とのコミュニケーションを深めることも大変重要な要素となります。このマニュアルを活用し、それらのことが実現できることを期待しています。

注 意 事 項

- 1 本マニュアルは、子どもと大人が一緒になって、まちを守る方法を記した小冊子です。けっして、子どもだけで「生活安全マップ」を作成させないでください。
- 2 「生活安全マップ」を作成することが、本マニュアルの目指すところではありません。マップの完成が終了ではなく、地域づくりのスタートとなります。
- 3 作成したマップを、ただ貼って展示するだけのものにしないで下さい。地域の問題点を共有し、より良い対策を検討するための地域の財産として、活用してください。
- 4 このマニュアルを実施する際は、子どもの人権を十分に考慮し、また事故や犯罪に遭った経験の有無などを事前に確認しておいて下さい。子どもに2次的な心的負担をかけないようお願いいたします。
- 5 フィールドワーク中の事故防止には万全を期してください。

もくじ

はじめに

注意事項

| | |
|--------------------------|----|
| 調査：みんなでまちを調査しよう | 1 |
| 【メンバー紹介】 | 1 |
| 【リーダーの決定と調査の目的】 | 2 |
| 【打ち合わせ】 | 3 |
| 【調査コースの決定】 | 4 |
| 【まちあるき調査の開始】 | 5 |
| まちあるき調査チェック票 | |
| 【調査終了】 | 8 |
| 生活安全マップ作りと発表会 | 9 |
| 【生活安全マップ作り開始】 | 9 |
| 【まちあるき調査の結果発表：生活安全マップ完成】 | 10 |
| 最後に：大人のみなさんへ | 11 |
| 付録：兵庫県内におけるアンケート調査結果の抄録 | 12 |
| 実際に行う場合の想定例 | 16 |
| 参考文献 | 16 |

ちょうさ ちょうさ 調査：みんなでまちを調査しよう

【メンバー紹介】

まちを守ることは、犯罪や事故から、私たちの暮らしを安全に守ることをいいます。

これから、おとなと一緒にまちの安全を調べるまちあるき調査をしますので、おとなにたくさん集まってもらいましょう。はじめに、集まった人をいくつかのグループに分けます。

1つのグループは、4～8人くらいにします。

その時、グループごとの、子どもとおとなの割合が同じになるようにしましょう。(どのグループも子どもとおとなが同じ数になる、おとなが子どもの倍になるなどです。)

つぎに子どもとおとながペアになって、自己紹介をします。(ペアにならない時は子ども1人とおとな2人のトリオなどでもかまいません。)

まず、それぞれの自己紹介をします。普段とはちょっと違った自己紹介ですよ。

自己紹介の内容は、つぎの3つです。

なまえ
名前

なまえ ゆらい
名前の由来(どうしてその名前をつけたのか、どんな思いがその名前に込められていたのか)

す
好きな食べ物

お互いに、その3つの自己紹介を聞いたら、しっかりと覚えてください。

つぎに、今聞いたペアの自己紹介を、グループの別のメンバー全員に伝えます。

自分の紹介ではなく、自分のペアになった人の紹介をする他己紹介です。おとなが二人の時は、二人とも紹介してあげてください。

時計回りで、順番に、ペアの人の紹介をしてください。

大人の皆さんへ

この活動の主役は、お父さんたちです。ただし「お父さん」とは、必ずしも親子参加を意味するものではありません。お父さんたち以外にも、地域のお母さんたち、おじいちゃんやおばあちゃんなど、同じ自治会、PTA、地域、集合住宅、マンションなど、多くの大人を誘ってください。大人が子どもと同数かそれ以上集まるよう、公民館職員の方や交番のお巡りさん、小学校や中学校の先生などにも声をかけてみてください。(どうしても子どもの方が多くなった場合は、工夫してマニュアルをアレンジしてください。)

子どもだけに行わせず、子どもと大人の共同作業であることが大切です。

集まる会場は、地区の集会場や小学校の教室など、ある程度の広さがある部屋で行ってください。他己(たこ)紹介では、上手に話せない子どももいますので、上手にリードしてあげてください。子どもがメモを取るのには良いですが、大人は記憶してください。

【リーダーの決定と調査の目的】

それぞれの紹介が終わったら、今度は、リーダーを決めます。

リーダーは子どもが1名。サブリーダーはおとなが1名です。

リーダーはまとめ役です。

立候補する人はいますか？

リーダー、サブリーダーが決まったら、記録係や写真係も決め、下の欄に名前を書いてください。(記録係や写真係は何人でもかまいません。子どもは何か役割をもちましょう。)

| リーダー | | サブリーダー | |
|------|--|--------|--|
| 記録係 | | 写真係 | |

それぞれが決まったら、サブリーダーは、今回のまちあるき調査の目的を読み上げます。

これから始める「まちあるき調査」は、私たちが住んでいるまちの安全を守るために
行きます。災害や事故からまちを守る「防災」、交通事故からまちを守る「交通安全」、
犯罪からまちを守る「防犯」を考えるため、楽しく協力しあって調査します。そして、
その結果を、生活安全マップという形で発表します。

今回は、メンバーの持ち物をチェックします。リーダーとサブリーダーは、持ち物があるかどうかを、読み上げて確認してください。

持ち物 地図 筆記用具(えんぴつ、ペン) カメラ(デジタルか、インスタント)

チェック票 メモ用紙 携帯用の筆記(地図を挟む)板 防犯ブザー

次に、打ち合わせに必要なものがそろっているかどうかチェックします。リーダーとサブリーダーは、持ち物があるかどうかを読み上げて確認してください。

打ち合わせに必要なもの 大きな地図(発表会でも使えます) 大きめの付せん紙

細字のマジックペン(赤、黒など)

大人の皆さんへ

この事前打ち合わせでは、このフィールドワークの主旨を、参加者全員が理解し、楽しく効果的に行えるよう準備します。

まず、リーダーを決める時は、大人がリードしてあげてください。

次に、これから歩く地域の大きな地図(道路や建物の状況などが分かる程度の地図であれば大丈夫です)を準備し、それを机に広げ「作戦会議」のような雰囲気子どもと一緒に作ってみてください。

【打ち合わせ】

では、打ち合わせを始めます。最初の打ち合わせは、グループ名の決定です。
楽しいグループ名を考えてください。

グループ名:

次に、まちを調査するコースを決めます。

机に、大きな地図を広げたら、まずじっくりと眺めてください。そして、次のことを考えて、付せん紙に書いて貼っていきます。

今まで、この地図にある場所で、例えば「自動車にひかれそうになってビックリした場所」などはありますか？もしあれば、付せん紙にどんな「怖い思い」や「ビックリ」だったかを書いて、その場所の地図の上に貼ってください。書きたくないならば書かなくても良いです。

今まで、この地図にある場所で、怖い思いやビックリしたことはないけれども、事故やケガに気を付けたほうが良いと思う場所がありますか？もしあれば、付せん紙にその内容を詳しく書いて、その場所の地図の上に貼ってください。

今まで、この地図にある場所で、「楽しかった場所」や「また行きたい場所」がありますか？もしあれば、付せん紙にどんな「楽しさ」や「行きたい理由」を詳しく書いて、その場所の地図の上に貼ってください。

全員が貼り終わったら、メンバーでその地図を眺めてください。

どこの場所に、たくさん付せん紙が貼ってありますか？

リーダーとサブリーダーが進行係になって、それぞれの場所についてのメンバーの感想を聞いてみてください。全員の感想が出た後、今度はおとなの人から、これまで事故や災害、交通事故、犯罪などがあった場所を地図に示してもらいます。それらの出来事が、どんな内容なのか、良く聞いておいてください。

大人の皆さんへ

子どもと一緒に、大人も同じ作業を行って仲間意識を高めてください。メンバー同士、話しかけ合いながら楽しく、地図に貼ってみてください。

実際の事故や災害、交通事故、犯罪などのデータは、事前に関係者や公的なホームページから情報を入手しておいてください。刺激が強いと思われる事件事故の情報については、適切な扱いや十分な考慮をお願いします。子どもや大人の実体験による場所、危険性の高いと思われる場所、実被害があった場所、そして楽しい場所、これら4つの場所を観察することが重要となります。

【調査コースの決定】

次に、付せん紙を貼った地図に、これから観察するコースを書き込んでいきます。

まず、自宅から小学校までの通学路を、えんぴつで書き込んでください。

次に、下校の時の自宅までの通り道を、えんぴつで書き込んでください。

最後に、良く遊ぶ場所までの通り道を、えんぴつで書き込んでください。

全員が書き込んでください。重なってもかまいません。
「自宅から小学校までの通学路」と「下校の時の自宅までの通り道」が同じ場合は、片方を省略してください。



全員が書き込んだら、調査コースを決めていきます。

登下校の通学路を中心に、ビックリした場所、気をつけたほうが良い場所、実際に事故があった場所、楽しい場所が含まれるようなコースを考えてください。これらの場所が、チェックする大切な場所になります。調査の時間は、だいたい1時間から1時間30分くらいです。

各グループの調査コースが決まったら、全体による事前発表会を行います。

各グループのリーダーとサブリーダーは、地図をみんなに見せて、決定したコースと、なぜそのコースにしたかを順番に発表してください。この時、ビックリした場所、気をつけたほうが良い場所、実際に事故があった場所、楽しい場所について、簡単に説明もしてみてください。

他のグループの発表を聞いて、コースを変更しても良いです。また、その場所は車が多いいからもっと離れた場所から観察すると良い、といったアドバイスがあれば、どんどんしてください。

全グループの発表が終わったら、まもなく、まちの調査が始まります

大人の皆さんへ

コースに設定は、メンバーの数、開始時間、登下校の範囲の広さなどによって変わりますが、概ね1時間から1時間30分で終了するように設定してください。また、開始時間は、子どもが学校から帰る時間帯に設定すると、より实际的で良いでしょう。

コースを決める際に重要なこととして、事故に巻き込まれないことが、まず重要です。また、通俗的な偏見などによって、特定のエリアを特別視することも避けてください。

他グループとのコースの重複などがあった場合は、調査の順路を逆にするなどの工夫をしてください。

【まちあるき調査の開始】

では、出発です。

忘れ物はないですか？リーダーが中心になって、持ち物の最終確認をしてください。

では、車などに気をつけて、協力しあいながら調査を開始しましょう。



(調査のポイント)

普段、歩いている道をじっくり観察してみることに。その時に、

避難場所 避難施設 消火栓 交番 子ども110番 街灯 横断歩道
車の数 人通りの数 落書き ゴミ 道路の段差 など

チェックしてみてください。

ビックリした場所、気をつけたほうが良い場所、実際に事故があった場所、楽しい場所の4カ所で、なぜそうなのか？ どうすれば改善できるかなどを考えると。

楽しい場所とその他の場所との違いを考えると。

まちの調査は、グループのメンバーが協力して、楽しく行ってください。

ただし、観察はしっかりと行い、必要なところはおとなの人に確認しながら、チェックしているものをカメラで撮影してください。

通行人の顔や車のナンバープレートなど、撮影されていやな気持ちになると思われるものは、写真には写さないようにしてください。

なお、ケガや交通事故には、十分気をつけて行ってください。

大人の皆さんへ

みんなで自分たちの街を歩き観察すると様々な発見があり、久しぶりに一緒に行動すれば楽しくおしゃべりも弾みます。何よりも楽しく調査することが大切です。

そのためには、まず、交通事故やケガなどが無いよう、十分に注意しながら実施してください。

また、このようなフィールドワークの楽しさのひとつに、地域の方々との出会いや挨拶があります。例えば、コース内に「子ども110番」があれば、ぜひその家の人や店の人に挨拶してみてください。ほとんどの大人は、この「子ども110番」の場所をあまり知っていません。挨拶による「人」と「人」とのネットワーク作りは、より良いまちづくり、地域づくりの要となります。そして、それが安全で安心なまちづくりの原動力となるわけです。

それぞれの箇所の写真を撮影することも大切です。この時に、大人の視点だけではなく、子どもの視点、女性の視点、お年寄りの視点、といったふうに、様々な視点で撮影してみてください。

また、実施している時間帯の評価と共に、「夜間」を想定して評価することも重要です。その場合、街灯の数や門灯など家からの光を想定して評価してみてください。

子どもが持っている「防犯ブザー」を、道路上や公園にて鳴らしてみてください。特に、犯罪が発生した場所や犯罪が起こるかも知れないと思われる場所で、鳴らしてみてください。どのように聞こえますか？場所によっては、室内で聞こえるような大きな音がしない場所、「防犯ブザー」とはわからないような場所があると思います。

もし、聞こえにくい場所があったら、最も近いお宅を訪問し、ブザー音が聞こえたかどうか尋ねてみてください。全く聞こえないなら、子どもの持つ防犯ブザーは効果がないということになります。

前記に、調査のポイントを挙げてみました。

このようなポイントを基本にして、地域の特性に沿った「観察・調査ポイント」のチェック票を作成しておくことも大切です。メンバー全員がそのような票を持ち、4つの箇所で、それぞれチェックや評価することで、その後の成果のまとめや、今後の対策を立てる時に役に立ちます。

次のページを参照し、地域の特性に見合ったオリジナルのチェック票を作成してみてください。

みほんばん ちょうさ ひょう
見本版：まちあるき調査チェック票

** みなさんの地域に見合ったチェック票を作成してください。 **

調査の日時 年 月 日 時 分から 時 分まで

グループ名

調査者の名前

| | なぜ、そうなのか | 改善点は |
|---|---|--|
| ピックリした場所 例：犬に吠えられたところ () | | |
| 気をつけたほうが良い場所 () | | |
| 実際に事故があった場所 () | | |
| 楽しい場所 () | | |
| 調査場所にあったもの数や、気になった点を記入してください。 | | |
| (例) 避難場所・施設の数 消火栓の数 観察中の車の数 観察時間 観察中の人通りの数 観察時間 | 近くに交番・駐在所がありますか？ ある ない 近くに子ども110番はありますか？ ある ない | 横断歩道はありますか？ ある ない その他、気になった点 道路の段差・街灯の有無 落書き・ゴミなど |
| 調査した場所で、気づいたことを、なんでも良いですから自由に書いてください。 | | |

【調査終了】

調査が終わりました。おつかれさまでした。

まずリーダーは、メンバーにケガや事故、気分が悪くなった人などがいなかったかどうか確認してください。

次に、メンバーのチェック票、写真などを出し合ってください。

そして、机の上の付せん紙を貼っている大きな地図を見ながら、どのチェック票が、どの場所の物を確認してください。

デジタルカメラの写真は、パソコンがあればディスプレイで見てください。もし、プリンターがあれば、必要なものをプリントアウトしてください。



大人の皆さんへ

たくさんの資料や写真が集まったと思います。また、子どもと一緒に眺めた地域には、いろいろな発見や気づきがあったかと思います。全員で事前検討会を行った部屋に戻り、まずは一息ついてください。

さて、ここでは、先ほどまでのまちあるき調査の振り返りを行います。

事前検討会で使用した大きな地図と、資料や写真とを照らし合わせてください。振り返りでは、フィールドワークを実施した感想、意見をメンバー全員が述べ合います。そして、何故観察した場所で事故や犯罪が起こりそうだったのか、何故そう思ったのか、どうすれば抑止できるのか、メンバーで話し合ってみてください。

ここでは、大人が中心となって、子どもをリードしながら検討を進めてください。

ある程度、意見や感想が出そろったら、次に具体的な対策を考えてください。

まず、機関や組織、個人に働きかけて解決できるような対策を挙げてください。次に、地域のメンバーで対応可能な対策を考えてみてください。

以上のような話し合いを行った後、発表会の時に張り出す生活安全マップに、わかりやすくコンパクトに書き込めるよう、まとめてみてください。

せいかつあんぜん づく はっぴょう 生活安全マップ作りと発表会

せいかつあんぜん づく かいし 【生活安全マップ作り開始】

さあ、^{こんど}今度は発表会のために使う生活安全マップを作ります。

作成に必要なもの
大きな地図(事前の検討会で使った物)
細字のマジックペン(赤、黒など)
調査で集まった資料 など

作るための材料はありますか？

生活安全マップには、調査した場所を中心に、気づいたこと、思ったこと、良いところ、悪いところ、どうすればもっと良くなるかなどを検討して、書いてみてください。

直接、地図に書いても良いですが、別の紙に書いて貼ったほうが見やすいです。発表のときに、他のグループの人たちにわかりやすく、工夫を凝らして作ってみてください。

さて、ここでもう一度確認します。このまちあるき調査の目的は、

これから始める「まちあるき調査」は、私たちが住んでいるまちの安全を守るために
行きます。災害や事故からまちを守る「防災」、交通事故からまちを守る「交通安全」、
犯罪からまちを守る「防犯」を考へるため、楽しく協力しあって調査します。そして、
その結果を、生活安全マップという形で発表します。

でした。このことを確認しながら、生活安全マップを作っていくてください。

調査した場所の良いところはどんなところか、悪いところはどんなところか、どうすれば、その悪いところが良くなると思うか、みんなで話し合いながら進めてください。

また、交番、避難場所、避難施設、病院、子ども 110番 などの場所も地図にはっきりわかるように印を付けてみてください。



【まちあるき調査の結果発表：生活安全マップ完成】

さあ、生活安全マップが完成しました。

じょうずに出来ましたか？

グループで発見したこと、話し合ったことが、しっかりと書き込まれていますか？

では、グループのリーダーは、前に集まってください。これから、発表する順番をじゃんけんで決めます。勝ったリーダーから、好きな発表順番を選んでください。
決まったら、参加者全員がその順番を下の表に記録します。

発表順番表

| No | グループ名(グループ名を書いてください) | 評価 |
|----|----------------------|----|
| 1 | | |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |
| 6 | | |

結果の発表会では、まず、作った生活安全マップを前に貼ります。
そして、順番に次のようなことを発表します。



発表するグループ名、リーダーとサブリーダーの名前
調査したコースと、調査ポイントの紹介
発見したことや問題点の紹介

グループで話し合ったこと(良くするための方法やこれからやること)

発表は、全体で20分間から30分間くらいにまとめて行ってください。

時間に余裕があれば、質問コーナーを設けてください。

評価の方法(例)

評価をする人：各グループのサブリーダー(おとな)が自分以外のグループについて行う。

評価項目の例：

| | | |
|----------|-----|---------|
| 発表の態度 | 10点 | } 30点満点 |
| わかりやすさ | 10点 | |
| グループのまとめ | 10点 | |

各グループの良いところはほめてあげてください。

最後に:大人の皆さんへ

無事、発表会も終了しました。

子どもは、楽しんで「まち歩き」や「マップ作り」に参加したでしょうか？
皆さんも、子どもから、いろんなことを学んだことだと思います。
本当に、おつかれさまでした。

さて、発表会の時には、「優良賞をひとつ選ぶ」といったことや、終わったらみんなで「記念撮影をする」といった内容も盛り込んではいかがでしょうか。後日、今回の検討経過や結果を、箇条書きでも良いので書類や小冊子にまとめ、参加者はむろんのこと、参加できなかった地域の方々に配布するのも良いでしょう。

大切なことは、参加したメンバー以外にも同じ「地域安全まちづくり」の意識と、それに基づく防災・防犯活動の意欲を持っていただくことにあります。今回の催しで得られた成果は、地域の貴重な財産として、何らかの形に残しておくことが大切です。

このマニュアルで示した内容は、集まった仲間やその地域の特性などを考慮しながら、より自由に変更していただいて結構ですが、 possible の限り「子どもとの複数人での調査」、「地図を広げて楽しく話し合う」、「具体的な対策の検討を子どもと一緒に考える」といったこと盛り込むことが大切です。また、一回で終了せず、定期的に繰り返し行うことも重要と考えます。

最後に、もう一度、地域の防災・防犯活動の心構えを。

まず、地域の防災・防犯活動を行う際には、まず地域の実態を客観的に知ることが大切です。そして、それを踏まえ具体的な対策を考えることが必要です。

次に、地域の仲間とのコミュニケーションを深めることが重要です。まちあるきの調査中にまちを歩く地域の人たちへ挨拶をしたり、地域の子どもに声を掛けたりして、楽しく行うことが活動の成功につながるでしょう。特に、普段、子どもと過ごす時間の少ないお父さん達が、この活動で主役になることは、子どもが抱く大人への信頼感をより高めるものと思われれます。

注意しなければいけないのは、子どもの力だけで事故や犯罪から身を守ることは難しい場合があるという事実です。安易に、子どもの危険回避能力の向上のみを求めることを避けてください。「地域の子どもの守るのは地域の大人の責務」、これが大原則であることを忘れてはいけません。地域で子どもを守るため、そして地域の防犯力をより高めるために、この「子どもと大人でまちを守る:生活安全マップ作成マニュアル」を活用してください。

付録：兵庫県内におけるアンケート調査結果の抄録

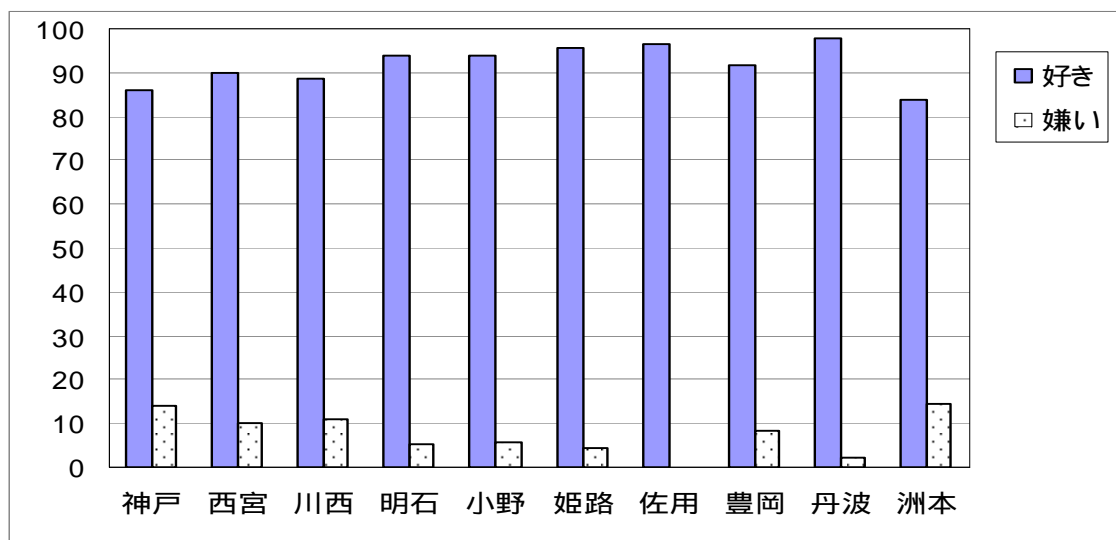
2010年9月から11月の間、兵庫県内10カ所にて、地域安全に関するアンケート調査を行いました。本付録では、調査結果の一部を紹介いたします。

本文中にもあるように、生活安全マップは、その地域の特性を十分に活かしたものでなければ有効なものとはなりません。以下の調査結果を参照し、子どもたちの意識や実態を反映した生活安全マップを作成してください。

なお、調査結果の詳細は『「地域安全マップ作成マニュアル」のための参考資料：地域の安全・安心に関する調査結果報告書』にまとめています。電子版などで提供する予定ですので、生活安全マップ作成の催しを行う地域リーダーの方などは事務局までお問い合わせください。

小学校高学年に対する調査結果

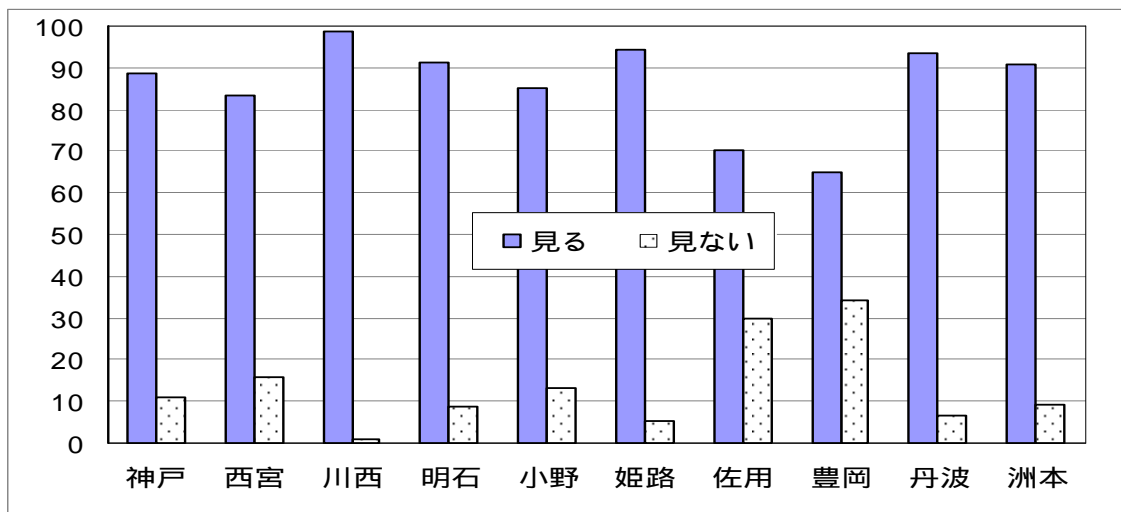
あなたは、住んでいる町が好きですか？



回答は(好き・すこし好き・あまり好きでない・嫌い)から1つ選択させた。

上表では、(好き・すこし好き)を「好き」に、(あまり好きでない・嫌い)を「嫌い」にまとめ、それぞれの割合(%)を棒グラフで表している。

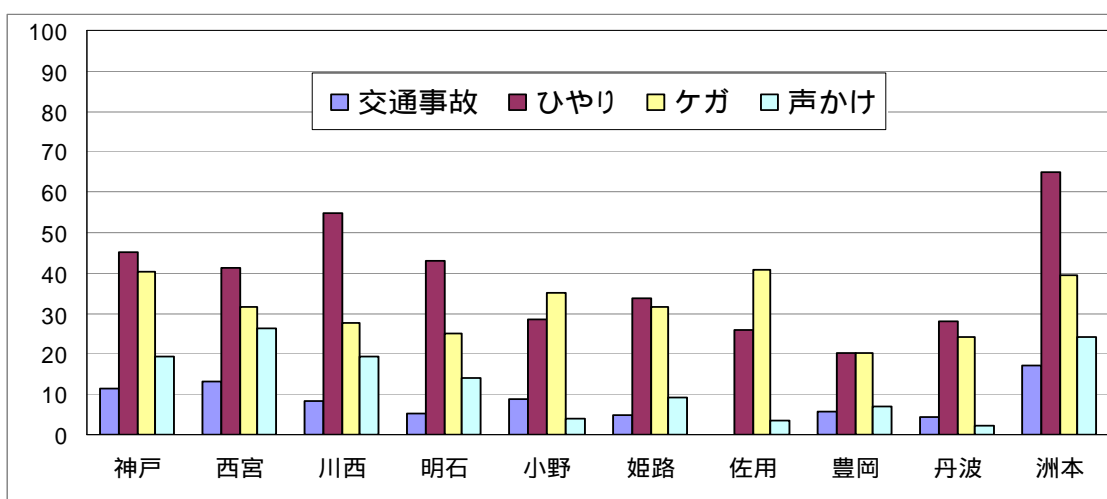
学校への行き帰りで、みんなを見守っている人や、パトロールをしている大人の人を、あなたはよく見ますか？



回答は(よく見る・ときどき見る・あまり見ない・見ない)から1つ選択させた。
上表では、(よく見る・ときどき見る)を「見る」に、(あまり見ない・見ない)を「見ない」にまとめ、それぞれの割合(%)を棒グラフで表している。

今、住んでいるところで、

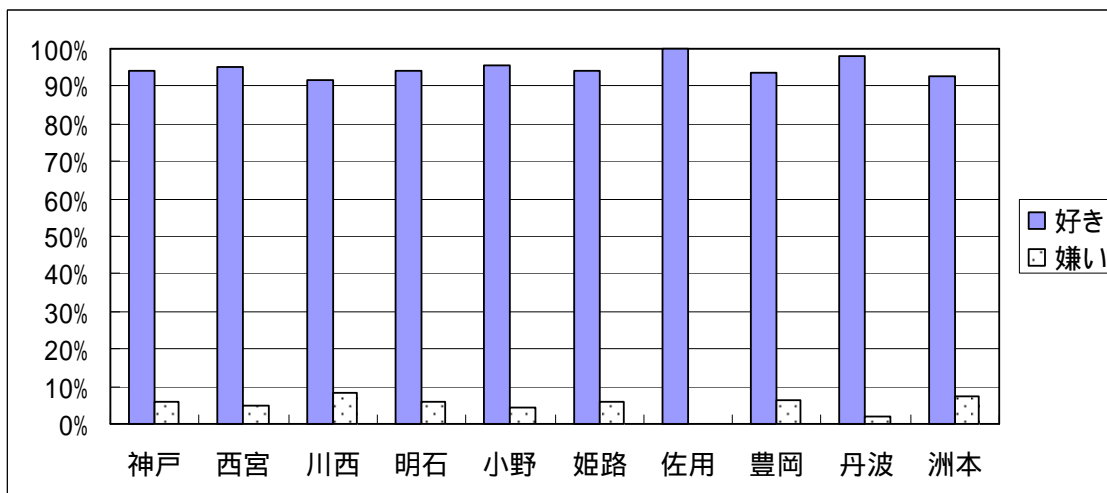
- ・交通事故にあったことがありますか
- ・交通事故に遭いそうになったこと(ひやりとしたこと)がありますか
- ・ケガをしたことがありますか
- ・声をかけられて怖い思いをしたことがありますか



回答は(ある・ない・別の町である)から1つ選択させた。
上表では、「ある」の割合(%)を棒グラフで表している。

小学校低学年に対する調査結果

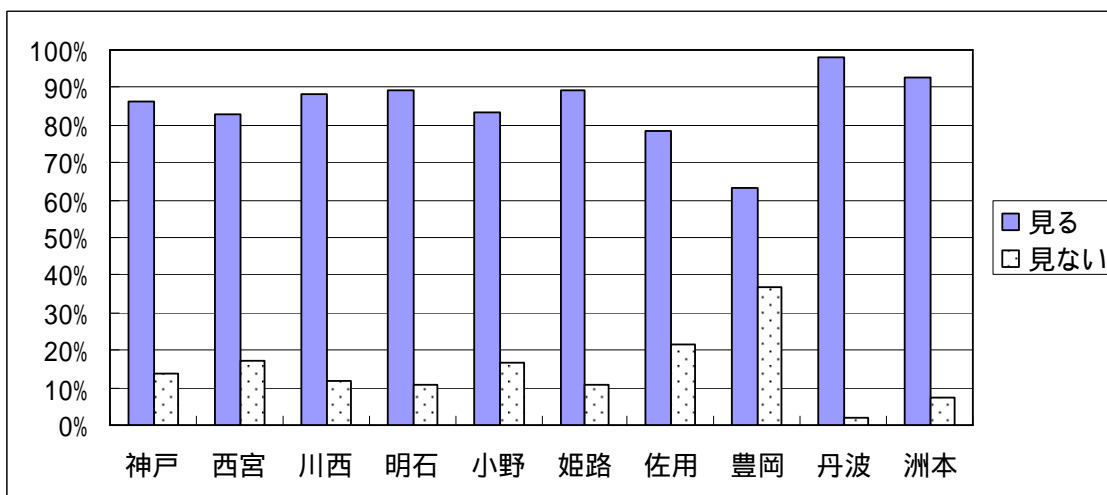
あなたは、住んでいる町が好きですか？



回答は（好き・すこし好き・あまり好きでない・嫌い）から1つ選択させた。

上表では、（好き・すこし好き）を「好き」に、（あまり好きでない・嫌い）を「嫌い」にまとめ、それぞれの割合（%）を棒グラフで表している。

学校への行き帰りで、みんなを見守っている人や、パトロールをしている大人の人を、あなたはよく見ますか？

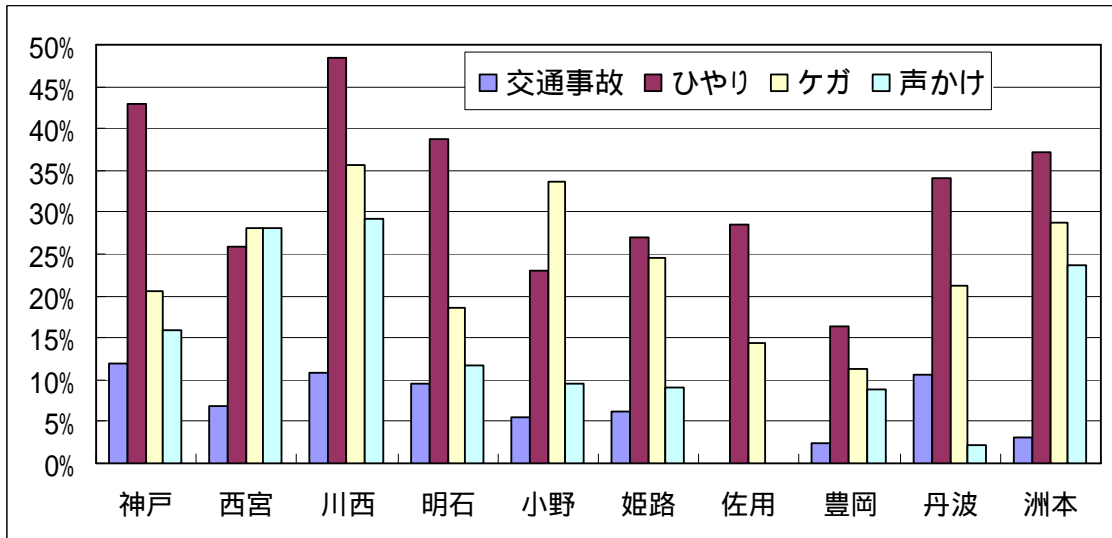


回答は（よく見る・ときどき見る・あまり見ない・見ない）から1つ選択させた。

上表では、（よく見る・ときどき見る）を「見る」に、（あまり見ない・見ない）を「見ない」にまとめ、それぞれの割合（%）を棒グラフで表している。

今、住んでいるところで、

- ・交通事故にあったことがありますか
- ・交通事故に遭いそうになったこと（ひやりとしたこと）がありますか
- ・ケガをしたことがありますか
- ・声をかけられて怖い思いをしたことがありますか



回答は（ある・ない・別の町である）から1つ選択させた。

上表では、「ある」の割合（%）を棒グラフで表している。

実際に行う場合の想定例

1. 参加人数 大人：20人～30人、子ども10人～15人
2. 開催日程 土曜日の午後1時～午後5時
3. 集合場所 公民館（会議室を1室借りる）
4. 時間割
午後0時50分 集合
午後0時50分～1時10分 マニュアルづくりの趣旨説明
午後1時10分～1時20分 グループ分け
(5グループに分ける)
午後1時20分～1時45分 グループ単位で他己紹介
午後1時45分～1時55分 リーダー、サブリーダー選び
午後1時55分～2時00分 持ち物チェック
午後2時00分～2時30分 グループ名決定、調査コース決定
〔コースは各グループが下校ルートでたくさんの児童が
たどる典型的なコースを5つ選定〕
午後2時30分～2時40分 全体で事前発表会(1グループ2分程度)
午後2時40分～3時40分 まちあるき調査
午後3時40分～3時50分 休憩、整理
午後3時50分～4時20分 グループごとに書き込みと大きな地図に
貼付
午後4時20分～4時50分 グループ発表
午後4時50分～5時00分 後片付け、終了

～～～ 参考文献 ～～～

「安全で快適なまちづくり：地域安全まちづくり条例」兵庫県県民政策部地域協働局地域安全課 作成

小宮信夫（著） 「地域安全マップ作製マニュアル」 東京法令出版

（財）兵庫県子ども会連合会（編）「防災学習ノート」 2010

桐生正幸（編）「平成20年度関西国際大学 文部科学省現代GP採択事業 現代GP安心・安全まちづくり報告書」関西国際大学 作成 2009

岡本拓子・桐生正幸（編）「幼い子どもを犯罪から守る：命をつなぐ防犯教育」北大路書房 2006

作成主体：ひょうご地域安全まちづくり推進協議会
事務局：兵庫県企画県民部県民文化局地域安全課内
電話・FAX：078-362-1071
E-mail：hyogo@bouhan-suishin.gr.jp
作成受託者：関西国際大学人間科学部 教授 桐生正幸
発行年月：平成23年3月